

4m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 4m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 4m 1 2 3 4 5 6 7 8 9

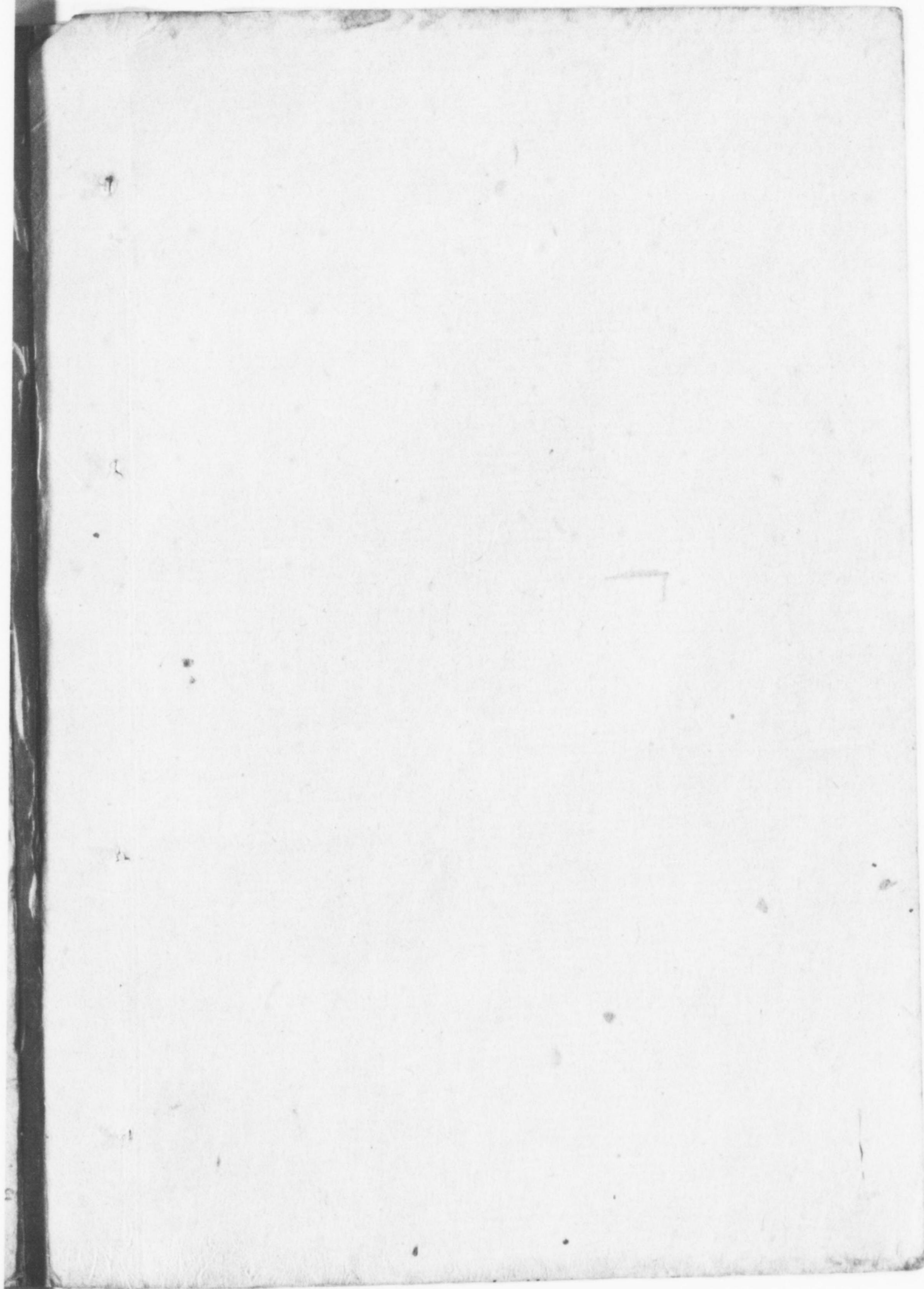
26

千八百八十三年

佛國刑事裁判報告

司 法 省 文 庫			
和 分 書 門	東 右 法 律 部	一 五 三 一 號	共 二 冊
架 函			

H 400
\$ 1
6



明治二十九年五月一日

小嶋吉子

注
長
律
受
第
四
〇
三
號

一千八百八十三年

佛國刑事裁判報告

H400
S 1
1 b

司法省

○千八百八十三年間佛蘭西及ヒアルゼリ
||ノ刑事裁判事務一般統計ノ報告

大統領閣下

余ハ千八百八十三年間佛蘭西及ヒアルゼリ
ノ刑事裁判事務ノ一般ノ統計ヲ閣下ニ捧呈ス
此統計表ハ總テノ點ニ於テ前二年ノ統計ハ大
同小異ナルヲ以テ既述ノ考察ヲ重ネテ説明ス
ルハ無益ナルヘシ

統計表ノ計數ニ影況ヲ及ホス可キ一ノ重要ナ
ル法ハ諸種ノ裁判事務ヲ改正シタル千八百八
十三年八月三十日ノ法是レナリ然レ凡之ヲ実

司法省

施マレハ僅ニ年未ノ二個月間ニ過キサリシヲ
其結果確然之ヲ量定スルヲ得スト雖モ余ハ此
二個月間ニ於ケル刑事裁判事務ノ迅速ニシテ
整頓マレハ過去ノ成跡ニ劣ラサリシヲ証明
セントス而シテ余ハ次回ノ統計表ノ指示ハ以
テ誤改正ヲ証明スルニ足ル可キヲ信ス

○佛蘭西

第一部 重罪裁判所

○對審裁判ニ係ル事件

千八百八十三年間ニ於テ陪審官ハ三千二百九十
 十九ノ公訴ヲ判定セリ即チ千八百八十二年ヨ
 リ少キ丁三百四十五件、千八百八十一年ヨリ少
 キ丁五十九件、千八百七十六年ヨリ八十年ニ至
 ル平均年數ヨリ少キ丁百四十七件、千八百七十
 一年ヨリ七十五年ニ至ル平均年數ヨリ少キ丁
 百四十七件ナリ故ニ十三年間ニ於テ重罪ハ百
 ニ廿キ十四ノ減少ヲ生セリ左ノ表ハ以上ノ五
 個年代ニ於テ對審裁判ニ係ル事件ノ數及ヒ其
 性質ヲ掲ケ以テ各種ノ重罪ノ増減ヲ知ルヲ得
 セシム

司法省

公訴ノ性質	一年平均數		實人數			
	千八百七十一 年ヨリ千八百七 十五年ニ至ル	千八百七十六 年ヨリ千八百八 十年ニ至ル	千 百 十 年	千 百 十 年	千 百 十 年	
弑親罪	十	十	七	十四	十六	
毒殺	十七	十四	七	十六	五	
謀殺	二百一	百九十七	二百十七	二百二十二	百九十九	
拉殺	二百六	百九十四	百七十四	百七十一	百九十一	
放殺	百六十三	百四十三	百八十二	百七十八	百八十七	
殺スノ意ナクシテ死ニ致シタル毆打創傷	百四	百三	百八	百五	百二	
尊族親ニ對スル毆打	三十七	二十四	十九	十八	十三	
重大ノ毆打創傷	十九	十八	二十一	三十九	十九	
官吏ニ對スル毆打創傷	九	八	四	六	三	
強盜又ハ風儀ヲ害スル罪	成人ニ對スル	百二十五	百〇八	九十	九十五	百〇八
	幼者ニ對スル	七百二十六	七百九十一	七百十八	七百五十二	六百七十五
墮胎	二十	二十	二十七	十九	十九	
偽証	五	一	一	三	三	
他人ニ對スル他ノ罪	四十五	三十	三十三	二十八	四十二	
合計	千六百八十七	千六百六十一	千六百〇八	千六百六十六	千五百八十二	
偽造貨幣(製造又ハ発行)	四十五	三十五	四十二	五十三	五十二	
諸種ノ詐偽	二百九十	二百九十二	三百〇五	三百三十二	二百六十七	
加重ノ情狀アル盜罪及ヒ背信罪	千五百四十八	千八百八十四	千百二十	千二百九十二	千百	
放火罪	百八十	百八十	二百〇七	二百〇四	百七十七	
詐偽倒産	七十	六十六	五十一	五十六	六十六	
他人ニ對スル他ノ罪	三十三	二十九	二十五	四十一	五十六	
合計	二千百六十六	千七百八十五	千七百五十一	千九百七十八	千七百十七	
總計	三千八百五十三	三千四百四十六	三千三百五十八	三千六百四十四	三千二百九十九	

右表中ノ第一欄ヲ最後ノ欄ニ對照スルキハ殆
ント總テノ重罪ハ減少マシテ觀ルヲ得可シ而
シテ減少ノ最モ著シキハ加重ノ情状アル盜罪
ニシテ強姦及ヒ風儀ヲ害スル罪ニ於ケル減少
モ亦ク重要ナリ何トナレハ該犯罪ハ今日ニ至
ル迄絶ヘス増進ノ傾向ニアリシヲ以テナリ而
シテ輕少ノ増加ヲ生マシハ唯々謀殺ニ於テア
リシノミ蓋シ此ノ犯罪タルマ嚴密ナル觀察ヲ
加フルモ屢々其違犯ヲ防シ能ハサル者ニシテ
大率ネ忿怒^怒又ハ妒忌ノ一時ノ發動若クハ意外
ノ原由ニ基ツク者ナレハナリ統計第二十七表
ヲ檢シテ之ヲ會得マルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ

司法省

如何ナル事項ニ於テモ増加ノ傾向ヲ表示マサ
リシト云フヲ得ヘク上ニ掲ケタル數中細少ノ
變動アルハニヶ年ヲ比較スルニ當リ必ズ生ス
ル者ニ過キナルナリ

○重罪被告人

陪審官ニ送附シタル三千二百九十九件ハ四千
三百十三ノ被告人ヲ抱括マリ而シテ其内千八
百〇二人(百ニ廿四十二)ハ公安又ハ人身ニ對ス
ル罪ノ起訴ヲ受テ二千五百十一人(百ニ廿五十
八)ハ財産ニ對スル罪ノ起訴ヲ受ケリ故ニ是レ
人口八千七百三十五ニ廿キ一被告人ノ割ニシ
テ人口十萬ニ廿被告人十一ノ割ナリ

此最後ノ比較數ハ縣ニ從テ甚シク變動アリ即チ

コルス縣ニ於テハ二十九人ノ割、アルアマリテ

一ム縣ニ於テハ二十三人ノ割、ブーレユ、ジユ、コ

一又縣及ヒカルバド一縣ニ於テハ二十三人ノ

割、マース縣ニ於テハ二十一人ノ割、マース、エー、

オワース縣ニ於テハ二十人ノ割ニ上レリ之ニ

及シテマイエン又縣マンレユ縣ドコーム縣オ

ートビエン又縣ムウールトエー、モセール縣、コ

ート、ジユ、ノール縣及ヒプイードドーム縣ニ於

テハ六人ノ割、ニエーグ縣カンクール縣及ヒア

リエージユ縣ニ於テハ五人ノ割、エルドル縣イ

ヨン又縣アリエー縣オート、カコン又縣ニ於テ

ハ四人ノ割ナリ而シテ人口ニ比較シテ最多ノ

被告人ヲ出マシ縣(コルス縣)ハ僅ニ人口二十七

万二千六百三十九ヲ有シ最小ノ被告人ヲ出マ

シ縣(オート、カコン又縣)ハ人口四十七万八千〇

九ヲ有マリスタマース縣ニ於テハ被告人ノ実

數ハ千八百八十二年ニ於テハ七百五十四人ナ

リシカ千八百八十三年ニ於テハ五百八十七人

ニ下レリ即チ被告人ヲ人口ニ割甘シタル點ニ

於テハ第一欄ヨリ第五欄ニ降等マリ

被告人男女ノ別

千八百八十三年間ノ被告人四千三百十三人ノ

内男子ハ三千六百八十七名ニシテ女子ハ六百

五

司法省

二十六名ナリキ而シテ女子ノ内十分三餘即チ
百九十七名百ニ廿三十一ハ拉殺ノ罪ニ係カリ
四分一即チ百六十三名百ニ廿二十六ハ加重ノ
情状アル盜罪ニ該当セリ

年。齡。

被告人ノ年齢ニ因リ區分スル片ハ左ノ如シ七
百九十六人ハ二十一歳未満、六百五十三人ハ二
十一歳ヨリ二十五歳ニ至リ、七百二十七人ハ二
十五歳ヨリ三十歳ニ至リ、九百七十七人ハ三十
歳ヨリ四十歳ニ至リ、六百二十四人ハ四十歳ヨ
リ五十歳ニ至リ、三百四十四人ハ五十歳ヨリ六
十歳ニ至リ、百九十二人ハ六十歳以上ナリキ

司。法。省

身。分。

被告人ノ内二千五百四十二名ハ未婚者ニシテ
千四百七十六名ハ配偶者(其内子アル者千三百三
十七名、子ナキ者三百三十九名)ナリ又チ二百九
十五名ハ鰥寡ナリキ(其内子アル者二百十二名、
子ナキ者八十三名)

教。育。ノ。度。

教育ノ度ヨリ區別スル片ハ左ノ如シ全ク文字
ナキ者千百十一名、讀方唇方ヲ知ル者三千〇三
十二名及ヒ高等ノ教育ヲ受タル者百七十名ナ
リ

生。國。原。籍。

被告人ノ二分一餘即チ二千四百四十四名ハ其
現住ノ縣ニ出生シ此ニ戶籍ヲ有スル者三十三
名ハ裁判ヲ受ケタル縣ニ出生シ他縣ニ住スル
者九百十一名ハ裁判ヲ受ケタル縣ニ現住シ他
ノ縣ニ出生シタル者九百二十五名ハ他縣ニ出
生現住スル者ナリ

職業

四千三百十三ノ被告人ヲ其職業ニ因リ區別ス
ルハ六六種ト為ス則チ農夫千五百四十三名
諸種ノ職工千二百七十二名大小ノ商人又ハ其
手代六百十九名而シテ三百〇九名ハ所有者年
金領受者又ハ學術的ノ職業ヲ行フ者二百三十
五名ハ雇人三百三十五名ハ無職ノ者又ハ職業
不詳者ナリ

司法省

住所

定マリタル住所ナキ被告人ハ全負ノ十分一ヲ
占ノリ而シテ市府又ハ田野ニ住所ヲ有スル者
ニ於テモ殆ント同數ヲ占メリ即チ人口二千
餘ノ市府ニ住スル者千九百二十二名人口二千
以下ノ町村ニ住スル者千九百五十七名ナリ然
レモ田野ノ人民ハ全体ノ人口ノ三分一ヲ組成
スルニ過キササルヲ以テ各階級ノ被告人ヲ適當
ノ人口ニ比較スルハ市府ノ人民十萬ニ付キ
被告人十四名ヲ出スノ割合ナルモ田野ノ住民

拾万ニ甘テハ僅ニ被告人七名ヲ出スノ割合ナ
リ
千八百八十三年ノ總數ハ以上陳フル所ノ如シ
然レモ左ノ表ニ因テ觀ルルハ罪状ニ関シテ各
犯人特有ノ情状ヨリ生スル影響ハ毎年殆ント
同一ノ結果ヲ表スヲ知ル可シ

司
法
省

住所	職業	教育ノ度	出生	身分	年齢	男女ノ別	重罪被告人	備考
田野ニ住スル者 市府ニ住スル者 定住ナキ者	農夫 工業者 商人 所有者年金受領者及學術的ノ職業ヲ行フ者 僕婢 職業知レサル者	無識者 唇方読方ヲ知ル者 高等ノ教育ヲ受ケル者	裁判ヲ受ケル縣ニ出生シタル者 同縣ニ籍アル者 同縣ニ全ク縁故ナキ者	未婚者 配偶者(子ナル者) 鰥寡(子ナル者)	二十一歳以下 自二十一歳至四十歳 自四十歳至六十歳 六十歳以上	男子 女子	人身ニ對スル 財産ニ對スル	千八百七十一年 千八百七十二年 千八百八十一年 千八百八十二年 千八百八十三年
四十八 四十六 六	三十七 三十四 六 七 七 六	三十六 三十一 三	六十一 六十三 十	五十五 二十九 一六	五十四 三十四 二 五	八十三 七	三十九 一九	一年平均數
四十七 四十五 八	三十六 三十四 七 七 六	三十 二十 四	六十二 六十八 十	五十五 二十九 二五	五十四 三十八 二 五	八十四 六	四十八 二	千八百七十四年 千八百八十年 千八百八十一年
四十四 四十七 九	三十五 三十一 七 七 七	二十六 十六 四	六十一 六十一 十	五十七 十八 一五	五十四 二十七 五 二	八十五 五	四十七 三	千八百八十一年
四十三 四十七 十	三十七 二十九 七 六 七	二十六 十六 四	五十九 十九 二	六十 十五 二五	五十八 十六 四 二	八十四 六	四十四 十	千八百八十二年
四十五 四十五 十	三十六 四十 七 五 八	二十六 十六 四	五十七 二十一 二	五十九 十六 二五	五十八 十五 四 二	八十五 五	四十八 二	千八百八十三年

百ニ比較シタル數

全ク又字ナキ被告人ノ減算ハ蓋シ小学教育ノ
普及ニ因ル者トス初メ千八百七十一年ニ於テ
ハ二十一歳ノ壮年中百ニ付キ十九、四ハ又字ヲ
知ラサル者タリシカ十年ノ後千八百八十一年
ニ至テハ百ニ付キ十三、八ニ過キサリキ又夕出
生ノ縣ニ於テ裁判マラレタル被告人ノ減算ハ
田野ヨリ市府ニ移住スル者著シク増加セシニ
因レリ何トナレハ田野ノ人民ハ千八百七十二
年ニ於テハ百ニ付キ六十九ノ割合ナリシカ千
八百八十一年ニ於テハ百ニ付キ六十五ノ割合
ニ下レリ

○起訴ノ結果

司法省

陪審官ニ附シタル三千二百九十九ノ起訴ノ内
二千〇二即チ十分六以上ハ全ク其採用スル所
トナリ四百四十七ハ多少ノ改正ヲ以テ採用ス
ル所トナレリ右ノ四百四十七ノ内二百七十九
ニ於テハ重罪ノ性質ヲ有スル事實ト認メ二百
十八ニ於テハ單純ノ輕罪ニ減算メリ又夕八百
ノ起訴(百ニ付キ二十四ノ割合)即チ四分一餘ハ全
ク陪審官ノ却下スル所トナレリ此ノ最後ノ割
合ハ千八百八十一年及ヒ八十二年ニ於テハ既
ニ百ニ付キ二十三ナリシカ千八百七十六年ヨ
リ八十年ニ至ル一年平均數ハ百ニ付キ十七
ニ過キサリキ

陪審官ノ不認罪ノ次答ハ財産ニ對スル重罪事
項ニ於ケルヨリハ(百ニ付十九)人身ニ對スル重
罪事項(百ニ付三十)ニ於テ最モ夥多ナルマ必セ
リ何トナレハ第一ノ場合ニ於テハ怨恨報仇ノ
情状ヨリ發生スル者ト雖モ第二ノ場合ニ於テ
ハ以前既ニ輕罪裁判所ニ出廷シタル者十中六
ニ居レハナリ

却下サレタル起訴ノ中最モ多數ナル者ヲ掲ク
ルキハ左ノ如シ百ニ付三十九ハ背信罪ノ起訴
百ニ付キ三十七ハ拉殺ノ起訴百ニ付三十六ハ
殺スノ意ナリシテ死ニ致シタル殴打創傷ノ起
訴百ニ付三十四ハ謀殺ノ起訴百ニ付二十八ハ

司 法 省

強盜及ヒ風儀ヲ害スル罪ノ起訴百ニ付キ二十
七ハ偽造罪ノ起訴ナリ而シテ加重ノ情状アル
盜罪ノ起訴ハ百ニ付七度却下セラレタルニ過
キス但シ盜罪ノ内十分七ノ場合ニ於テハ被告
人再犯ナリ
被告人ノ男女年齢教育ノ度ヲ起訴ノ結果ニ比
較シテ得ル必ノ平均數ハ毎年粗ホ變動ナキヲ
以テ陪審官ハ一般男子ニ於ケルヨリモ女子ニ
於テ寬ニ其寬待ハ年齢及ヒ教育ノ度ニ從テ増
ス者ナリト云フヲ得ハシ此ヲ以テ男子ニシテ
陪審官ノ不認罪ノ決答ヲ受ケシ者ハ僅ニ百ニ
付二十五人ニ過キサルモ女子ハ百ニ付キ四十

ニノ場合ニ於テ之ヲ受ケリ
此ノ無罪放免ノ割合ハ四十歳以下ノ被告人ニ
於テハ百ニ廿二十六ヲ超過セサリト雖モ四
十歳ヨリ六十歳ニ至ル被告人ニ於テハ百ニ廿
*三十二ニ上リ六十歳以上ノ被告人ニ於テハ
百ニ廿キ四十ニ上リ又文字ヲ知ラサル被
告人ニ至テハ百ニ廿僅ニ二十六ヲ放免セシメ
シ読唇ヲ知ル者ニ於テハ百ニ廿キ二十八ノ割
合ニシテ高等ノ教育ヲ受ケレ者ニ至テハ百ニ
廿キ三十八ノ割合ニ達セリ故ニ以上ノ諸種ノ
情状ハ被告人ノ犯シタル重罪ノ性質ニ拘ハラ
ス陪審官ノ決答ニ多少ノ影響ヲ及ホスモノト
又

司法省

陪審官ノ不認罪ノ決答ニ因リ千二百〇三ノ被
告人(百ニ廿二十八)ハ無罪放免ノ申渡ヲ受ケリ
又ト十六歳ノ未丁年者十六人ハ有罪ト者認テ
レタルモ辨別ナキ者ト認定シ同シク放免ニ帰
セリ然レハ重罪院ハ之ヲ懲治場ニ送附セリ(刑
法第六十六條)其内十人ハ二十歳ニ至ル迄五人
ハ十八歳ニ至ル迄一人ハ十七歳ニ至ル迄留置
マラレタリ因テ以上ノ人算ヲ引去ルキハ三千
〇九十四ノ被告人ヲ處刑セリ其宣告シタル刑
ハ左ノ如シ

死刑

執行サレタル	三
減刑サレタル	二十二

	二十五

無期徒刑

.....	九十八
.....	九十八

有期徒刑

二十年以上	八十五
八年ヨリ十九年ニ至ル	三百八十五
八年以下	二百九十四

	七百六十四

流刑

無期	二
二十年	三
五年ヨリ十年ニ至ル	五百九十五

	六百

禁錮

一年以上	千三百二十一
一年又ハ其以下	二百七十五

	千五百九十六

罰金

.....	十一
.....	十一

三千〇九十四

往復課 十九年五月廿日
寫字部 第四五六号

○死刑

裁判ヲ受ケタル被告人四千三百十三人ノ内六
百四十三人ハ最重ノ犯罪ノ起訴ニ係リ内二百
六十一人即ケ五分一ハ有罪ノ宣告ヲ受ケリ然
レ凡陪審官ハ二百三十六人ニ對シ酌量減刑ノ
決定ヲ為マシテ以テ重罪院ハ四十九人ヲ無期
徒刑ニ處シ百七十九人ヲ有期徒刑ニ處シ八人
ヲ流刑ニ處セリ(六十歳以上ノ者)故ニ最重ノ刑
ノ宣告ヲ受ケシ者ハ二十五人ナリ

最重ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル被告人ノ内女子二
人十六歳ヨリ二十一歳ニ至ル未丁年者五人既
ニ一度ニ處刑ヲ受ケタル者十六人全ク豫審ヲ
受ケサル者七人ヲ存マリ而シテ死刑ヲ誘引マ
シ罪ヲ揭リル者ハ十八ノ被告人ハ謀殺犯ニシ
テ二人ハ拉殺犯三人ハ弑親犯二人ハ強姦シテ
人ヲ殺シタル者ナリ又テ三人ニ對シテハ裁
判所ハ其手續ヲ遂行マリ即ケ強盜人ヲ殺シタ
ル者二人又ニ弑親犯一人ハ死刑ニ處セラレ他
ノ二十二人ハ無期徒刑ニ減刑セラレタリ之ヲ
要スルニ最重ノ犯罪者ト認メラレタル被告人
ノ數ハ減少スルニ至レリ既ニ二十年間ニ於テ
百ニ廿キハノ割合ニ減シ(千八百五十六年ヨリ
六十年ニ至ル一年平均數ハ三百六十三人ニシ
テ千八百七十二年ヨリ千八百八十年ニ至ル一

司法省

重罪院ハ刑ノ適用ニ於テ陪審官ノ寛容ヲ採取セリ即チ最重ノ刑ヲ宣告ス可キ場合ノ十分八及ヒ無期徒刑ニ処ス可キ場合ノ十分六ニ於テ二等ヲ減セリ而シテ法官ノ酌量權ヲ使用スル場合ハ有期徒刑ニ処ス可キ犯罪ノ事項ニ於テ最多ナリトス此種ノ犯罪ニ於テハ踰越損壞偽鑄等ヲ以テ犯シタル盜罪其三分二餘ヲ占ムルノミナラス其犯人ハ上ニ陳ヘタル如ク十中七八再犯者ナルニ拘ハラヌ法官ノ酌量減刑ヲ採用スル割合ハ百ニ對シ六十七度ナリ重大ナラサル重罪即チ流刑ニ処ス可キ罪ニ處シテハ百ニ對シ八十二ニ對シ陪審官ハ酌量減刑ヲ宣告セリ然レ氏談犯罪ニ於テハ重罪院ハ唯々一等ヲ降ヌヲ得ルノミナルヲ以テ法官ハ如何ナル限度ニ於テ陪審官ノ寛容ニ与シマシヤヲ評定スルヲ能ハサルナリ

司 法 省

○ 監視

陪審官ニ送附ス可キ重罪犯ヲ説キ了ルニ當リ一言以テ重罪院ノ宣告スル監視ニ関スル千八百七十四年一月二十三日ノ法ノ適用ヲ陳ヘサル可カラヌ上ニ掲ソル最後ノ表ニ因テ觀ルルハ有期ノ施休及ヒ加辱ノ刑ニ處ヤラレタル被告八千三百六十二人ナリ右ノ内五分三即チ八百十三人ハ監視ノ免除ヲ受ケ四百六十八人即

ヲ三分一(百ニ付キ三十四)ニ対シテハ此附加刑ノ期限ヲ十年以上二十年以下(二百七十一人)又ハ十年以下(百八十九人)ニ減マリ最重ノ監視(二十年)ニ処セラレタル者ハ僅ニ八十九人(百ニ付キ六)ニ過キヌ

人身ニ対スル罪ニ因テ処刑セラレタル被告人ハ(百ニ付八十一)財産ニ対スル罪ヲ犯シタル被告人(百ニ付四十八)即チ概ネ極悪人ニシテ人身ニ対スル犯罪人ヨリ危険ナル者ヨリハ監視ノ免除ヲ受クルルコト夥多ナルハ明カナリ

刑ノ免除ヲ受ケタル貨幣偽造ノ被告人(刑法第百三十八条)ハ十年ノ監視ヲ受ケリ又チ軽罪ノ

司法省

刑ニ処セラレタル五十一ノ被告人ハ同シク一年以上十年以下ノ監視ニ處セラレタリ

○裁判ヲ受ケタル重罪ノ缺席被告人

千八百八十三年ニ於テ重罪院ハ陪審官ノ参涉ナク三百十ノ缺席公訴ヲ判定セリ而シテ此ノ缺席才判ハ三百三十五名ノ被告人ヲ含有セリ即チ是レ千八百八十二年ヨリ多キ丁十三事件十二被告人ナリ缺席被告人ノ犯シタル犯罪ハ主トシテ盗罪又ハ背信罪(百〇一)偽造(七十九)詐偽倒産(六十六)強姦又ハ風儀ヲ害スル罪(三十一)又チ故殺(十九)ニ係レリ而シテ裁判所ハ八人ニ對シ死刑ヲ宣告シ三十三人ニ對シ無期徒刑ニ

百〇五人ニ対シ有期徒刑、八十六人ニ対シ流刑、一人ニ対シ公権剥奪、一人ニ対シ禁錮、一人ニ対シ懲治入監ヲ宣告セリ(刑法第六十六條)

○再審ヲ受ケタル缺席被告人

對審ノ裁判ヲ受ケタル四千三百十三ノ被告人ノ内八十三人ハ以前既ニ缺席裁判ニ處セラレタル者ナリ而シテ對審裁判ニ因リ二十八人ハ放免ヲ受ケ五十五人ハ左ノ如ク処刑セラレタリ即チ無期徒刑一人、有期徒刑十人、流刑十一人、輕罪ノ刑ニ處セラレタル者十三人ナリ又タ二個判決ノ中間ニ經過シタル期日ハ被告人三十三人ニ対シテハ一年以下ニシテ三十二人ニ對シテハ一年ヨリ五年ニ至リ七人ニ対シテハ五年ヨリ十年ニ至リ他ノ十三人ニ対シテハ十年ヲ超過セリ

司法省

○國事犯罪及出板ノ犯罪

千八百八十一年七月廿九日ノ法ニ從テ陪審官ニ附シタル國事犯罪及出板ノ犯罪ハ千八百八十三年間ニ於テ三十九ノ數ニ達シ被告人五十二人ヲ含有セリ千八百八十二年ニ於テハ第一ノ數ハ三十四ニシテ第二ノ數ハ五十五ナリキ而シテ千八百八十三年ノ三十九ノ犯罪ヲ區別スルハ左ノ如ク故殺奪掠等ノ教唆十五、官吏ニ對スル公ケノ侮辱罵詈二十一、風俗ヲ害ス

百〇五人ニ対シ有期徒刑、八十六人ニ対シ流刑、一人ニ対シ公権剥奪、一人ニ対シ禁錮、一人ニ対シ懲治入監ヲ宣告セリ(刑法第六十六條)

○再審ヲ受ケタル缺席被告人

對審ノ裁判ヲ受ケタル四千三百十三ノ被告人ノ内八十三人ハ以前既ニ缺席裁判ニ處セラレタル者ナリ而シテ對審裁判ニ因リ二十八人ハ放免ヲ受ケテ五十五人ハ左ノ如ク処刑セラレタリ即チ無期徒刑、一人、有期徒刑十人、流刑十一人、輕罪ノ刑ニ處セラレタル者三十三人ナリ又タ二個判決ノ中間ニ經過シタル期日ハ被告人三十三人ニ対シテハ一年以下ニシテ三十二人ニ對シテハ一年ヨリ五年ニ至リ七人ニ対シテハ五年ヨリ十年ニ至リ他ノ十三人ニ対シテハ十年ヲ超過セリ

司法省

○國事犯罪及ヒ出版ノ犯罪

千八百八十一年七月廿九日ノ法ニ從テ陪審官ニ附シタル國事犯罪及ヒ出版ノ犯罪ハ千八百八十三年間ニ於テ三十九ノ數ニ達シ被告人五十二人ヲ含有セリ千八百八十二年ニ於テハ第一ノ數ハ三十四ニシテ第二ノ數ハ五十五ナリキ而シテ千八百八十三年ノ三十九ノ犯罪ノ區別スルルキハ左ノ如シ故殺奪掠等ノ教唆十五、官吏ニ對スル公ケノ侮辱罵詈二十一、風俗ヲ害ス

ル罪一、及乱ノ喊声一及ヒ及乱唇類ノ配分一ナ
リ其之ヲ犯シタル方法ヲ掲クルキハ二十六ハ
定期刊行ノ出板ヲ以テシ一ハ不足刊行ノ出板
ヲ以テシ十二ハ言論ヲ以テセリ右被告人ノ内
二十一人ハ放免ニ帰シ三十一人ハ處刑セラレ
タリ(十人ハ罰金ニ、十人ハ一年又ハ一年以下ノ
禁錮ニ、十一人ハ禁錮一年以上ニ)

○第一部 輕罪裁判所

○事件

千八百七十一年以來重大ノ犯罪ハ至要ノ減少
ヲ生セシト雖モ(百ニ付十四)中間ノ犯罪即チ輕
罪裁判所ノ判決スル輕罪ニ至ラハ然ラサルノ

司法省

ミナラス却テ百ニ付キセノ増加ヲ顯出セリ左
ニ掲クル所ノ表ハ千八百七十一年ヨリ七十五
年ニ至ル間ト千八百七十六年ヨリ八十年ニ至
ル間トノ各五ヶ年ニ對スル一年平均數ト及ヒ
千八百八十一年ヨリ八十三年ニ至ル年間ニ對
シテ輕罪裁判所ニ附シタル最重最劣ノ犯罪ノ
實數トヲ示シ以テ十三年間輕罪ノ運行ヲ確知
スルノ方法ヲ与フ

司
法
省

此、兩極ノ年代ヲ對照スル片ハ二万三千七百三十四ノ差異ヲ生ス而シテ右ノ數ノ内監視違反、流浪、乞丐、盜罪及ヒ飲食店ニ對スル詐偽其三分ニ餘ヲ占メリ此増加ヲ來タシタルハ數年以來歐洲ノ一部ニ發生シ以テ疾苦ヲ醸シタル農業上及ヒ工業上ノ困難多少興テ力アリト為スハ人々ノ非認スルヲ得ナル所ナリ然レモ亦々他ノ一方ヨリ觀ル片ハ上ニ掲ケタル五犯罪ニ該當スル被告人ハ百ニ付キ七十三ノ割合ニ於テ再犯者ナルヲ以テ再犯ヲ豫防懲罰スルノ法ハ如何ニ急速ナルヤヲ知ルヲ得可シ

司法省

又通常倒産、詐偽取財及ヒ背信ノ犯罪ハ至要ノ増加ヲ來タサズ千八百八十一年ヨリ八十三年ニ至ル數ハ殆ント大同小異ナリ又々各人相互ノ交際ヨリ常ニ生スル毆打創傷ノ罪ニ関シテハ自千八百七十一年至七十五年間ヨリ千八百八十三年ニ至ル増加ハ四分一ナリ然レモ此ノ増加タルヤ既ニ極度ニ達シタル者ノ如シ何トナレハ三年以來其數ニ増減ヲ生セサレハナリ之ニ及シテ威權ヲ害スル罪ハ幸ニ夥多ナラサリシヲ觀ル可シ幼者ニ對スル罪、商業上ノ詐偽等ニ於ケルモ亦々之レト同シ
森林ノ事項ニ於テ千八百八十三年ニ裁判セ

ラレタル五千六百三十九ノ違反ニ裁判ニ先キ
和鮮ニ係リシ一万八千二百ノ違反ヲ加算スル
キハ合計二万三千八百三十九ヲ得可シ反之千
八百七十一年ヨリ七十五年ニ至ル一年平均数
ハ三万五千六百〇四犯ナリキ

千八百八十三年間輕罪裁判所ノ裁判シタル十
七万九千二百七十九件ヲ區別スル片ハ通常犯
罪十六万〇百六十八件(百ニ付八十九)森林及ヒ
税則違反十九万九千九百一十一件(百ニ付十一)ナリ而
シテ其内五千九百十五件即チ百ニ付三件ハ民
事原告人ノ起訴ニ係リ二万〇九十七件即チ百
ニ付キ六件ハ官署ノ告発ニ係リ十六万三千二

司法省

百六十七件即チ百ニ付キ九十一件ハ檢察官ノ
起訴ニ係レリ

此ノ檢察官ノ起訴ニ係ル件数ノ内千七百八十
七百〇二件即チ殆ント二分一ニ於テハ(百ニ付
四十八)被告人ハ直ニ訟廷ニ呼出サレ五万六千
五百〇八件(百ニ付三十五)ニ於テハ現行犯ニ関
スル千八百六十三年五月二十日ノ法ヲ以テ創
設シタル經濟上迅速ナル手續ヲ使用シ二万八
千〇五十七件(僅ニ百ニ付十七)ニ於テ豫審ヲ為
セリ

事件ヲ適當ノ場所及ヒ法官ニ配付スルヲ以テ
其職任ト為ス檢察官ハ益々犯罪ト懲治トヲ接

近セシムルニ盡カセリ是レ千八百八十三年ノ數ト千八百七十一年ヨリ七十五年ニ至ル數トヲ對照シテ知ルヲ得ヘシ此ノ五十年間中平均數八百二十三年ノ法ニ據テ裁判シタル事件ノ平均數八百八十五年ニ於テ八百二十五年ノ割合ニ上レリ之ニ反シテ豫審ニ附シタル輕罪事件ノ平均數八百七十七年ヨリ七十五年ニ至ル間ニ於テ八百二十五ナリシカ千八百八十三年ニ於テ八百二十七ノ割合ニ下レリ此ノ結果タルヤ既ニ大ニ評定スルヲ得ヘク檢察官ヲシテ此ノ良好ノ慣習ヲ確守セシムルノ獎勵ト為スヲ得可シ何トナレハ懲罰ヲ迅速有効ナラシメ未決拘留ヲ廢止セサルモ其期限ヲ短縮シ以テ刑事裁判ノ入費ヲ減少スルニ至レハナリ

司法省

○輕罪被告人

重罪被告人ト同シク輕罪被告人ニ付テモ其身分、家族、教育ノ度、職業等ヲ探知スルノ利益アルヤ疑ナレ何トナレハ是レ人民ノ各階級ヲ比較シテ以テ其舉動ヲ研究スルノ方法ナレハナリ然レモ四五千人ニ付テ之ヲ研究スルハ易レト雖モ二十万人ニ付テハ難事ナリ況ニヤ輕罪事項ニ於テハ重罪事項ニ於ケルカ如ク常ニ心要

十九指示ヲ蒐集スル豫審アルニ非サルニ於テ
 乎且ツ輕罪被告人ノ十分一餘ハ缺席裁判ヲ受
 タルヲ以テ此等ノ場合ニ於テハ証人訊問ヲ為
 スヲ得サリキ故ニ此ノ如キ統計表ノ元素ハ甚
 タ不完全ニシテ充分明確ノ論告ヲ誘引スルヲ
 得ス唯、男女及ヒ年齢ニ関スル参考ヲ披華スル
 ヲ得ルニ過キス而シテ此ノ点ニ付テハ毎年同
 一ノ結果ヲ呈ス即チ千八百八十三年ニ於ケル
 被告人二十万九千四百九十九名ノ内チ男子ハ
 十八万〇六百四十八名ニシテ女子ハ二万八千
 八百五十一名ナリ是レ千八百八十一年及八十
 二年ニ於ケルカ如ク男子ハ百ニ付キ八十六名
 ニシテ女子ハ百ニ付キ十四名ナリ又チ被告人ノ年
 齡ハ總テノ書類ニ記載アルヲ以テ此ノ点ニ関
 シ通常犯ノ被告人十八万七千〇八十四名ヲ區
 別スル片ハ左ノ如シ

司 法 省

男 女

十六歳以下 四千八百十六人(百ニ付六) 七百六十元(百ニ付三)
 十六歳ヨリ五十一歳ニ至ル 二万五千八百五十
 九人(百ニ付十六) 三千百二十九人(百ニ付十二)
 二十一歳以上 十三万〇百十八人(百ニ付八十一) 二万二千四百人(百
 ニ付八十五)

合計十六万〇七百九十三人 合計二万六千二百九十一人

此平均數ハ全ク前二年ノ數ト同一ナリ

○輕罪ノ起訴ノ結果

民事原告人ノ起訴ニ係ル事件千件ノ内々三百件ニ於テハ被告人ヲ赦免セリ而シテ公ケノ官署ノ起訴ニ係ル事件ニ関シテハ千ニ付キ二十六ノ割合ニ過キス又々檢察官ノ起訴ニ係カル事件ニ對シテハ千ニ付キ三十七ノ割合ヲ超過セカリキ此ノ差異ヲ生スル所以ノ理ハ既ニ屢陳ハタルヲ以テ重子テ之ヲ記スルノ要ナシ然レモ檢察官ノ全ク失敗シタル數ハ甚タ少キヲ以テ考フん片ハ檢察官ハ公訴權執行ニ注意ヲ為スヲ證明シ得ヘシ

單純ノ赦免ヲ受ケタル被告人ハ一万二千百。

司法省

三名(百ニ付キ六ノ割)ニシテ辨別ナキ者ト看做シ赦免シタル十六歳以下ノ幼者ハ三千六百人(百ニ付キ二ノ割)ナリ而シテ裁判所ハ此幼者ニ對シ左ノ決定ヲ為セリ

兩親ニ送還シタル者 千九百三十一人

監視ニ附シタル者(刑法第二百七十一條第二

項)五人

一年又ハ一年以下懲治監ニ送附シタル者

三百七十人 一年以上懲治監ニ送附シタル

者 千二百九十四人

而シテ被告人数十九万三千七百九十六人ハ左ノ

如ク處刑セラレタリ

罰金ノ三ニ處セラレタル者

七万五千五百〇七人 (百三付千五百)

一年又一年以下ノ禁錮ニ處セラレタル者

十万六千七百三十一人 (百二付千五百六)

一年以上ノ禁錮ニ處セラレタル者

五千五百七十六人 (百二付千二)

禁錮ノ主刑ニ裁判所ハ千四百十六人ニ對シ監視ヲ附加シ九百二十三人ニ對シ公権剝奪ヲ附加セリ監視ニ附セラレタル者ノ内千五百六十三人ハ盜犯者三百五十一人ハ巴里府及ヒ里昂府ノ駐在ヲ禁シタル者ニ達シテ犯シタル者ニシテ二百九十人ハ流浪乞丐犯者ナリ故ニ此ノ三階級ノ被告人ヲ合スルハ監視ニ附セラレタル被告人ノ總數ノ二分ノ十七ヲ占メリ又タ若干ノ權利ヲ剝奪セラレタル被告人ノ四分三即チ六百八十七人ハ千八百七十三年一月二十三日ノ法律第三條ノ規定ニシタル醉倒罪ヲ以テ處刑セラレタリ

輕罪裁判所ニ於テ酌量減刑ヲ採用スルノ度ヲ評定セントセハ處刑セラレタル被告人ノ全數ヨリ稅則又ハ森林ニ關スル違犯及ヒ刑法第四百六十三條ノ適用外ナル犯罪ニ因リ處刑セラレタル被告人ヲ引去ルハ前條ノ規定ヲ利益ス可キ被告人ノ數ハ十五万千八百五十二人ニ減少ス其内該條ノ適用ヲ受ケル者ハ九万三千百十二人即チ是レ百ニ付キ六十二人ナリ然ルニ重罪ニ於テハ

司 法 省

工ニ觀ルカ如ク陪審官ハ百ニ付七十五度酌量
減刑ノ存スルアルヲ宣告セリ抑モ統計表ニ因
テ輕罪裁判所ノ法官ヲレテ法律ノ布告スル刑
ヲ減スルニ至ラシムル所以ノ理ハ統計表ニ因
テ之ヲ探究スルハ難事ナリト雖モ然レテ流浪
乞丐罪ノ事項ニ於テ監視ニ附スル者ハ犯者ノ
復籍ニ至大ノ障礙ヲ與フルヲ以テ裁判所ノ酌
量減刑ヲ採用スルハ百ニ付キ九十九度又ハ九
十四度ニ於テハ唯監視ヲ免カレシメントスル
ニアリ且ツ此附加刑ハ將ニ吾刑法中ニ消滅セ
ントス何トナレハ近時議會ノ討議ニタリ再犯
ニ關スル法ハ監視ヲ廢止シ之ニ代ユルニ特別

司法省

ナル性質ノ駐留禁止ヲ以テスルニ決定セシヲ
以テナリ又タ他ノ總テノ事項ニ於テハ刑罰ヲ
犯罪ニ平衡スルノ必要ハ屢瑣少ナル損害ヲ釀
生セシト雖モ亦タ刑法第四百六十三條ノ適用
ヲ証明スルニ足レリ然レテ盜犯者ノ過半ハ再
犯ノ狀況ニ在ルヲ以テ考フル者ハ此ノ如キ犯
者ニレテ酌量減刑ノ利益ヲ受クル者十分九餘
即チ百ニ付八十八ノ多キニアルヲ慨嘆スルヲ
得ヘシ
重罪院ニ於ケルカ如ク輕罪裁判所ニ於テモ女
子ハ男子ヨリ寛恕ヲ受クルヲ多シト雖モ其差
大ナラス左ニ通常犯罪ノ事項ニ於テ兩者ニ對

スル單純ノ故免ノ平均數ヲ示サニ

男子

女子

十六歳以下

百ニ付キ四十

十六歳以下

百ニ付キ四十二

十六歳以上廿一歳以下

百ニ付キ五
十六歳以上廿一歳以下

廿一歳以上

百ニ付キ六
二十一歳以上

總平均數

百ニ付キ七

總平均數

百ニ付キ九

森林及ニ稅則ニ關スル違犯ノ事項ニ於テハ故

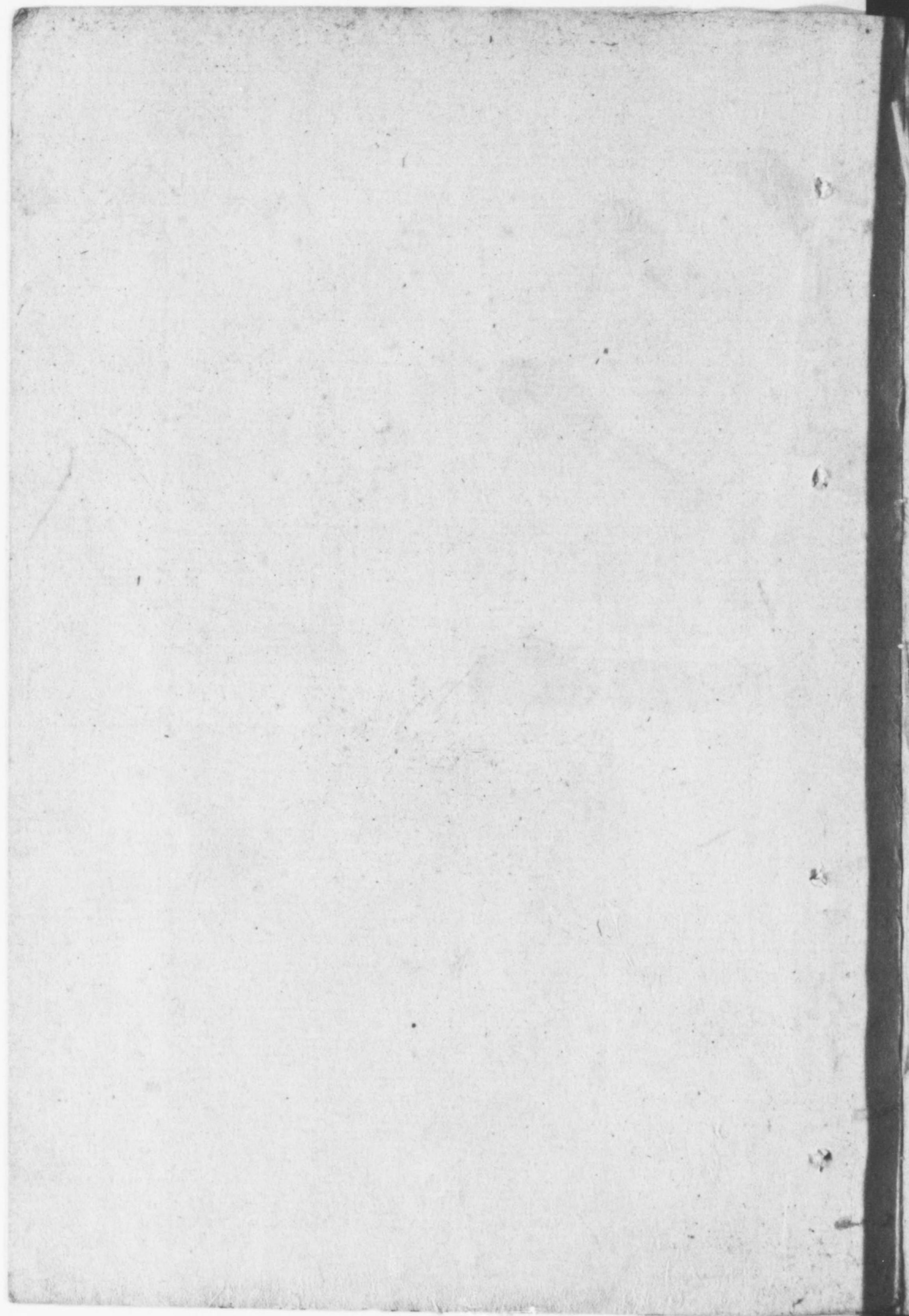
免ノ割合男女ニ對シテ同一ナリ即チ百ニ付キ

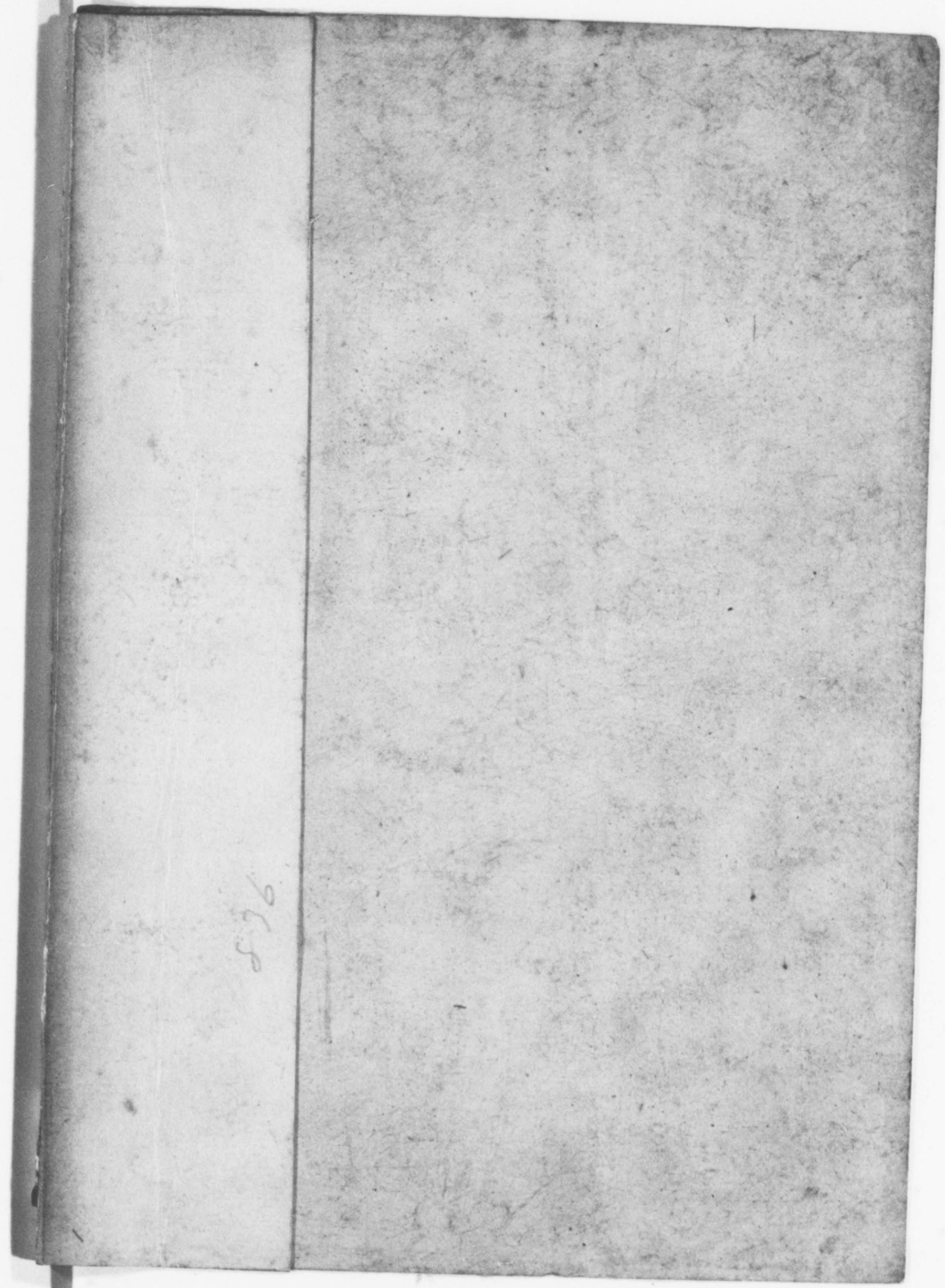
四十

司法省

司法省文庫
第836號

836





576